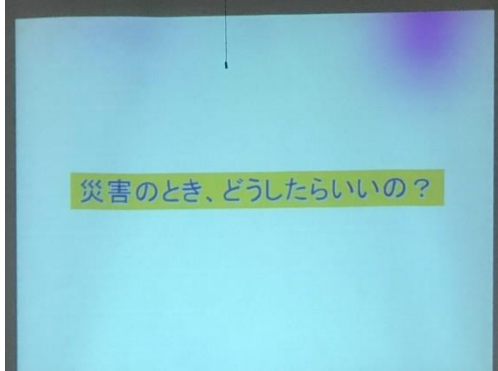


1人ひとりが避難の手順を決めるプロジェクト 事例集

【市町村名、地区名】 美濃加茂市太田地区	
【名称】 下町ふれあいサロン	
【日時】 令和元年9月18日（水）13:30～14:30（1時間）	
【場所】 下町西公民館	
【対象者】 太田地区の高齢者住民	【人数】 16名
【取組みのきっかけ】 <p>太田地区は、南側に木曾川があり、大雨などの際に氾濫の危険性がある。市の洪水ハザードマップでは最大で5メートルに近い浸水が想定されており、近隣の住民の不安となっている。特に、避難に時間のかかる高齢の方は、平常時からの準備と早めの避難が必要となるため、地区より美濃加茂市に高齢者サロンの場で防災に関する啓発の依頼があり、サロンの場を活用しての実施となった。</p>	
	
【実施までの運び】 <ul style="list-style-type: none">○主催者 美濃加茂市○活用した機会 該当の地域にお住いの高齢者の方へ、地区の代表者から参加の呼びかけを実施。○周知・案内 市広報に掲載、案内文書を回覧版で各家庭に配布。○事前準備 会場準備：説明用パワーポイント、ボールペン、お菓子 配布資料：災害・避難カード（A3版）、カード記入例（A3版） ※災害・避難カードは県様式をもとに市にてアレンジして作成。○当日のスタッフ 講師1名（市防災安全課職員1名）補助1名（岐阜県防災課）○その他 美濃加茂市では、災害発生時の避難所を段階的に開設しており、日頃から住民へ周知することで、避難したのに避難所の鍵が開いていない等の問題の解決を図っている。	
【実施内容】 <p>美濃加茂市防災安全課あいさつ（1分） 過去の災害事例の紹介（平成29年7月九州北部豪雨、平成30年7月豪雨等）（14分） 気象情報や避難情報等、危険を回避するための情報収集方法（25分） 災害・避難カードの作成（20分）</p>	

【カードの様式】

太田地区 災害・避難カード ～一人ひとりが考えて決める避難手順～

私の避難情報マップ

(C) 標準用

<p>【凡例】</p> <ul style="list-style-type: none"> 0.0m以上3.5m未満 3.5m以上10m未満 10m以上20m未満 20m以上50m未満 50m以上 	<p>【記入してみましょう！】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自宅……………○ ②避難場所……………◎ ③要介護者がいる場所……………△ ④避難場所までのルート……………→ ⑤避難する際に危険な場所……………× 	<p>○私の避難情報マップの作成</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自宅を「○」で囲み、周囲の色を見て、水害や土砂災害の色味があるかどうかを確認します。 ② 安全な避難場所を決めます。緑地に色がなく、水害や土砂災害の色味がない、もしくは危険の少ない場所を選び、「◎」を記入します。 ③ 声掛けや一緒に避難する必要がある方がいる場所に「△」記入します。 ④ 自宅「○」から一階に避難する必要がある方がいる場所「△」を理由して避難場所「◎」まで行く道筋を「→」で書き込みます。 	<p>【メモ】</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>
--	---	--	--

1

【取組みの状況】

○指導者による地域の災害リスクやハザードマップの見方の説明



○自分自身の避難の手順を考える参加者



【今後の展開】

今回の取組みを事例として他の地域でも災害・避難カードを作成する取組みを普及していく。

